次の文章を読んで、設問に答えなさい。

信頼関係や助け合いは明らかに「サービス」ではありません。ましてや「商品」ではありません。そもそも市場というものが出現するはるか以前からある人類学的慣習ですから、そのようなターム(注)で語れるはずがありません。①それらはいわば「お金では買えないもの」です。

「お金で買えないもの」。これはたしかによく耳にする言葉です。

しかし僕が気になるのは、ここに「否定」が入り込んでいることです。

お金で買えないもの、という否定的定義。

たとえば「猫」はたしかに「犬ではないもの」ですが、それで猫が十全に定義され、説明されているわけではもちろんありません。

「猫とは何か？」と問うたときに「犬ではないもののことだ」という答えに満足できる人はいないでしょう。なのに、なぜ「お金で買えないもの」という言い方に僕らは満足してしまうのでしょうか？

その言葉によって、何かが言い表された気になるだけで、それがどのようなものであり、どのような効果を僕らにもたらすのかは一向に分かりません。

お金では買えないもの。それは一体何なのでしょうか？

僕らが必要としているにもかかわらずお金で買うことのできないものおよびその移動を、ひとまず「贈与」と呼ぶことにします。それは定義上、商品やサービスという「市場に登場するもの」とは異なるものとなります。

では、お金で買えないものは、どうやって手に入れたらいいのでしょうか。お金で買えないものは、どこから僕らのもとにやってくるのでしょうか？

そもそも、どうして私たちは互いにプレゼントを贈り合うのでしょうか。

誕生日、クリスマス、バレンタインデー、母の日、父の日、あるいは何かの記念日。

ほしいものがあるなら各々が自分で買えばいいのに、なぜか私たちはプレゼントという慣習を持っています。

プレゼントという慣習の理由。

それは、②誰かからプレゼントとして手渡された瞬間に、「モノ」がモノでなくなるからです。

もし自分で買ってしまったら、どれほど高価なものであっても、それはあくまでも「モノ」としての存在を超え出ることができません。

どういうことか。

親しい人から誕生日に腕時計をプレゼントされたとしましょう。その腕時計がどこかのお店で購入されたものならば、それ自体はただの「モノ」にすぎません。この世界にただ一つしかない特別な時計などではなく、他の誰でも対価さえ支払えば購入できる、交換可能な「商品」でしかありません。

ところが、その腕時計が「贈り物」として手渡された瞬間、事態は一変します。

たとえば、その時計を壊してしまったり、あるいは無くしてしまったりしたとき、僕らは

何を感じるでしょうか。

もらった相手にその事実を隠したまま、同じモノを自分で購入してそしらぬ顔でやり過ごす、というようなことはしないと思います。多くの人は、相手に対して申し訳ないと感じたり、「なんでもっと丁寧に扱わなかったんだろう」とひどく後悔したり、落としたと思われる場所まで探しに行ったりするはずです。他人からすれば「たかが時計だろ？　何十万円もするものでもないし」と思っても、本人にとっては非常にショッキングな出来事です。

もし仮に、まったく同じ型の時計をこっそり購入して、相手にそのことを黙ったままやり過ごすとしたら、僕らの多くはその後ろめたさに耐えられないはずです。

プレゼントされた時計も、無くした後に自分で購入した時計も、モノとしては等価なはずなのに、僕らはどうしてもそうは思うことができません。そこには、モノとしての価値、つまり商品としての価値からはみ出す何かがあると無意識に感じるのです。商品価値、市場価値には回収できない「余剰」を帯びると言ってもいいかもしれません。そしてその余剰が、単なる商品だったその腕時計に唯一無二性、言い換えれば固有名を与えることになるのです。

重要なのは、「その余剰分を自分自身では買うことができない」という点です。なぜなら、その余剰は誰かから贈られた瞬間に初めてこの世界に立ち現れるものだからです。

モノは、誰かから贈られた瞬間に、この世界にたった一つしかない特別な存在へと変貌します。贈与とは、モノを「モノではないもの」へと変換させる創造的行為に他ならないのです。

だから僕らは、他者から贈与されることでしか、本当に大切なものを手にすることができないのです。

「自分へのご褒美」という言葉の空虚さの理由がここにあります。

ご褒美は本来、誰かから与えられるものです。だからそれは買うことのできないもの、すなわち贈与なのです。

（注）「ターム」とは「専門用語」を意味する。

（近内悠太『世界は贈与でできている―資本主義の「すきま」を埋める倫理学』
NewsPicks Publishing、2020 年。
なお、原文の一部を変更している。）

【設問１】

下線部①に関連して、信頼関係や助け合いを「お金では買えないもの」と否定的に定義することの問題性を筆者は指摘しているが、「猫と犬」の例と対比しつつ、筆者が指摘する問題性を本文に即して説明しなさい。（150 字以内）

【設問２】
下線部②に「誰かからプレゼントとして手渡された瞬間に、「モノ」がモノでなくなるからです」とあるが、筆者のいう「モノ」とは何か。また筆者のいう「モノ」がモノでなくなるとはどういうことか。本文に即して説明しなさい。（250 字以内）

【設問３】
筆者は「贈与」とはどのようなものだと考えているか。「贈与」とは何かをまとめたうえで、筆者の意見に関するあなたの考えを、あなたの経験にもとづいて述べなさい。（800 字以内）